

中等教育研究開発室年報 第33号（2020年3月31日発行）別冊電子版  
2019年度 授業実践事例

社会科・地歴科・公民科 高等学校第I学年

19世紀のヨーロッパ文化～時代を表現するキャッチコピーはこれだ！～

授業者 藤原 隆範

（校内研究授業）

広島大学附属中・高等学校



## 高等学校 地理歴史科「世界史A」 学習指導案

指導者 藤原 隆範

- 日時** 令和2年1月30日(木) 第3限 10:40～11:30
- 場所** 第2社会科教室
- 学年・組** 高等学校I年5組 40人(男子21人 女子19人)
- 単元** 19世紀のヨーロッパ文化  
ー19世紀を総括する～時代を表現するキャッチコピーはこれだ!～
- 目標**
1. 19世紀の文化史に関わる個別の歴史事象について調査し、得られた諸資料から有効な情報を整理・吟味し、理解・活用することができる。【知識・技能】
  2. 歴史事象の意味や意義を考察し、思考・判断したことを論理的に説明できる。【思考・判断・表現】
  3. 自分の考えを、筋道を立てて説明し、集団での議論に主体的に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】

### 指導計画

- 第一次 冬休みの課題として、19世紀のヨーロッパ文化史に関わる個別のデータを整理する。(冬休みの家庭学習)
- 第二次 冬休みの課題として、19世紀のヨーロッパ文化史に関わる人物で、興味・関心のある者を取りあげ、その業績を調べる。(冬休みの家庭学習)
- 第三次 冬休みの課題として取り組んだ、19世紀のヨーロッパ文化史に関わる学習を通して、19世紀のヨーロッパとはどのような時代だったかを考察し、その時代を表現するキャッチコピーを考える。(冬休みの家庭学習)
- 第四次 クラス全員が考えたキャッチコピーを見て、特に優れているものを3つ選び、その理由を考える。(前時)
- 第五次 クラスで選ぶ最高のキャッチコピーは何か、比較・吟味・検討し、決定する。

### 授業について

文化史の学習は、指導する側にとっても、学ぶ側にとっても、取り組みにくい。個々の事象について深く追求すれば膨大な時間を要するし、決められた時間内で終えようとするならば、人物とその業績・作品を整理し覚えさせるだけの、「悪しき暗記学習」にならざるを得ない。調べ学習をさせることも一つの手法であるが、自分の調べたことについては精通するが、他の人が調べた内容を理解し、皆が、学習内容を共有することが難しい。このような問題意識の下、本小単元は、19世紀ヨーロッパ文化史に関わる事象について、教師作成のプリントを、教科書・資料集等を使用しながら完成させ、特に興味・関心をもった人物・業績についてさらに詳しく調べさせ、その人物や業績が、19世紀という時代にどのように影響をされていたかを考察させた。これらを通して、19世紀ヨーロッパ史全体を振り返り、その時代を象徴するキャッチコピーを作らせた。文化は、その時代の政治・経済・社会等が集中表現されたものと考え、文化を見ることで、その時代の政治・経済・社会をも含めた全体像を再検討させ、その時代の特色を表現するキャッチコピーを作らせた。この小単元は、冬休みの家庭学習と、教室の授業では、前時1時間の後半30分と、本時(50分)のみである。シラバスを考えれば、本小単元にこれ以上の時間を割くことはできない。前時において、クラス全員が作ったキャッチコピーを紹介し、それぞれが、優れた作品を3つ選び、その理由を記述させた。本時では、19世紀ヨーロッパという時代を最も適確に表現した最優秀作品はどれかを審査する。今回の研究授業では、文化史の学習を教師中心の講義形式ではなく、調査・発表・議論を経て結論を導く、「アクティブ・ラーニング」的な手法を試みる。

## 題 目 19 世紀ヨーロッパ史を総括する～時代を表現するキャッチコピーはこれだ！～

### 本時の目標

1. 19 世紀ヨーロッパの文化を調べ、情報を整理し、効果的に活用することができる。【技能】
2. 「19 世紀ヨーロッパとはどのような時代だったのか」を、政治・経済・社会・文化など様々な観点から、論理的・複合的に説明することができる。【思考・判断・表現】
3. 個で調べた内容の発表、クラスでの議論の中で、自分の考えを意欲的・主体的に述べるすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

### 本時の評価規準（観点）

1. データベースを有効に活用し、情報を収集・整理することができる。【技能】
2. 時代を考察するための視点や方法を理解し、19 世紀ヨーロッパという時代を多面的・多角的・総合的に説明できる。【思考・判断・表現】
3. 他者の意見に真剣に耳を傾け、様々な考え方があることを前提に議論に参加している。【主体的に学習に取り組む態度】

### 本時の教授・学習過程

パート	教授・学習活動	指導上の留意点
<導入> ○前時までの復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでやってきた学習活動を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休みの宿題として、19 世紀の時代の特色を理解する方法として、19 世紀文化史に関わるデータベースを作成した。その中から、興味・関心のある人物と、その業績を調べた。その過程で得たことをもとに、19 世紀という時代の特色を表現したキャッチコピーを考え、前時、その中から優れた作品を 3 つ選び、投票した。</li> </ul>
<展開> ○キャッチコピーを審査する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投票結果を知る。</li> <li>・疑問に思う作品に対して、質問しそれに答える。</li> <li>・上位 3～1 位の作品について、質疑応答を加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による若干の補足説明。</li> <li>・前時で記されたワークシートをもとに、作者に解説をしてもらう。</li> <li>・上位 3 つの作品が、本当に 19 世紀ヨーロッパを集中表現するキャッチコピーにふさわしいかどうか、再検討する。</li> </ul>
<まとめ> ○19 世紀とはどのような時代であったのか、総括する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上位 3 つのキャッチコピーから、19 世紀ヨーロッパの時代の特色を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18 世紀以前や 20 世紀以降との“繋がり”を意識させる。</li> </ul>
使用教科書	『明解 世界史 A』 帝国書院 126～129p. 『世界史 B 新訂版』 実教出版 280～283p.	
使用副教材	『ニューステージ 世界史詳覧』 浜島書店 222～225p. 教師作成のプリント	

# 19世紀のキャッチ・コピーを考える！

20世紀は、「戦争と革命の世紀」と呼ばれます。

同じように、19世紀に、アグレッシブで、インプレッションの濃い、キャッチ・コピーを考えてください。

## 19世紀の文化人を斬る！

「19世紀のヨーロッパの文化」に関係した人物で、最も興味ある者を一人取り上げ、その人の生涯と代表的な作品について論ぜよ。  
(ホームページ等の完全な「コピー+貼り付け」は、絶対にしないこと。法令違反で、無効となります。)

☞ 誰を取り上げたか？  国名 ( ) 生まれ [ 生年 ~ 没年 ]

☞ 代表的作品は？

生          涯	☞ 取り上げた人物についての、その波乱万丈の生涯を記せ。
作          品	☞ 代表的な業績(作品)について解説せよ。

★ 3学期最初の「世界史」の授業で提出すること。



5組	スコア	19世紀のキャッチ・コピー	19世紀の文化史で取り上げた人物	代表的作品
1	2	帝国主義国家と植民地の格差拡大の世紀	ヤーコブ・グリム	グリム童話
2	1	帝国主義拡大と市民勢力台頭の世紀	マルクス	資本論
3	10	同盟と裏切りの世紀	ナポレオン・ボナパルト	ナポレオン法典
4	8	ナショナリズムのバーゲンセール	ベートーヴェン	交響曲「運命」「田園」「第九番」
5	1	新たな芸術が生まれた世紀	ユーゴー	レ・ミゼラブル
6	11	産業革命のリフレイン・共産主義のアジテーター・一般市民のリベリオン	ナイチンゲール	看護学校・クモの巣チャート
7	4	探求からなる芸術と勉学	ゾラ	居酒屋
8	0	領土拡大と植民地の世紀	ドビュッシー	「海」「夜想曲」
9	5	蒸気の中のロンドン	ゴッホ	ジャガイモを食べる人々
10	0	列強と植民地の世紀	オスカー・ワイルド	サロメ
11	1	産業と国家の世紀	コナン・ドイル	緋色の研究
12	8	世界規模の弱肉強食	マリ・キュリー	ラジウムの発見
13	0	列強の海外進出の世紀	ゴッホ	ひまわり
14	1	世界発明発見の世紀	ダーウィン	種の起源・ビーグル号航海記
15	3	植民地と帝国主義	クールベ	石割人夫
16	1	近代化と革新の世紀	ダヴィド	ナポレオンの戴冠式
17	3	世界の一体化の世紀	ゲーテ	若きウェルテルの悩み
18	11	アートエクスプロード!!!	ニーチェ	ツァラトゥストラはかく語りき
19	1	芸術の世紀	ベートーヴェン	運命
20	1	人権確立の世紀	リスト	ラ・カンパネラ
21	3	列強の植民地争奪戦	ゴッホ	ひまわり・自画像
22	1	飾りから世の中へ	ファニー・メンデルスゾーン・ヘンゼル	ピアノ三重奏 二短調
23	0	市民・国民が政府に対して行動を起こす世紀	チャイコフスキー	「悲壮」「白鳥の湖」「大序曲1812年」
24	3	最高指揮者は誰だ!?	ディケンズ	二都物語
25	3	未来を支える革新的な文化を切り開いた世紀	ドストエフスキー	罪と罰 カラマーゾフ兄弟
26	7	Turning Up!!	ドストエフスキー	罪と罰
27	4	世界史のターニングポイント	アンデルセン	人魚姫 みにくいアヒルの子 マッチ売りの少女 即興詩人
28	2	変革と近代化の時代	ゴヤ	マドリード 1808年5月3日
29	1	広がる新たな文化と帝国主義の始まり	ゴッホ	ひまわり 星月夜 カラスのいる麦畑 荒れ模様の空と畑
30	2	侵略と反逆の世紀 or 弱肉強食の世紀	ユーゴー	レ・ミゼラブル
31	3	帝国主義と化学の発展に翻弄された19世紀	アンデルセン	マッチ売りの少女 みにくいアヒルの子 人魚姫 親指姫
32	4	「神様は本当に存在しますか？」の時代	ニーチェ	ニヒリズム(思想) ツァラトゥストラ
33	2	文化の発展の世紀～次世代の生活の豊かさ～と戦争に向けて～	ユーゴー	レ・ミゼラブル
34	0	文化が栄え、便利を創り出した世紀	ベートーヴェン	交響曲第5番「運命」 交響曲第9番
35	1	発明と発展の世紀	チャールズ・バベッジ	歯車式の多項式計算機
36	2	波乱の19世紀	アンヌ・ルイーズ・ジェルメヌ・ド・スタール	ドイツ論
37	1	弱肉強食が時代の常	ルノワール	ムーラン・ド・ラ・ギャレット
38	1	変化と発明の世紀	ベートーヴェン	第九交響曲
39	2	波乱万丈! 少年の心をいつまでも忘れない。	トルストイ	戦争と平和
40	6	文化の宝箱 19世紀	ベートーヴェン	交響曲第5番「運命」

1組	スコア	19世紀のキャッチ・コピー	19世紀の文化史で取り上げた人物	代表的作品
1	1	考えと物、地の発明世紀	シューベルト	魔王・アヴェマリア・セレドーナ
2	0	独立の世紀	マックス・ワリンガー	オリコンボスのキリスト
3	2	本当のベートーヴェン	ベートーヴェン	交響曲第9番
4	1	変化と発明の世紀	ゲーテ	若きウェルテルの悩み ファウスト
5	3	破壊と構築の世紀	ヴィクトリア女王	大英帝国の最盛期
6	0	文化と技術が飛躍した世紀	ベートーヴェン	第5交響曲「運命」
7				
8	0	革命の世紀	マネ	草場の昼食 オランピア
9	3	世界の近代化と分断分裂	オプライン	金剛石のレンズ・手から口へ
10	0	反乱と交渉の世紀	マリーアントワネット	
11	14	創造と破壊の世紀(センチュリー)	ベートーヴェン	第5交響曲「運命」
12	1	大衆文化の世紀	コナン・ドイル	シャーロック・ホームズ
13	1	近代的国家の成立と列強の支配の世紀	エディソン	白熱電球
14	1	統一と発見の世紀	アムンゼン	史上初の両極点到達
15	7	強国誕生 覇権争いと被支配者層への重苦の歴史	ダーウィン	種の起源 ビーグル号航海記
16	1	帝国と植民地の世紀	トルストイ	戦争と平和
17	0	産業革命と貿易の世紀	ゴヤ	カルロス4世の家族
18	10	芸術や学問 思想の大開花時代	ロダン	考える人 青銅時代
19	0	政治へとつながっていく文化の世紀	マルクス	資本論
20	2	頭脳・発展の19世紀	ロダン	詩人(考える人)・地獄の門
21	0	文化を育んだ時代	メンデル	遺伝の法則
22	0	マリオネットの独立～自由を求めて～	ダーウィン	種の起源
23	5	欧州の文化が咲き誇る100年	ゾラ	居酒屋
24	0	技術革新の時代	ユーゴー	レ・ミゼラブル
25	4	芸術と変革の時代	ドストエフスキー	罪と罰
26	3	文化と革新の世紀	モネ	印象・日の出
27	0	文化の開花の世紀	ベートーヴェン	交響曲第9番
28	1	自由と平等の世紀	メンデルスゾーン	ヴァイオリン協奏曲ホ短調
29	3	列強の侵略と民族独立～対立の世紀～	スタンダー	赤と黒・恋愛論・バルムの僧院
30	2	革新と退廃の世紀	オスカー・ワイルド	サロメ・幸福な王子
31	5	変容と躍進の時代	モネ	印象・日の出・睡蓮
32	1	多様な文化形成と経済の発展の時代	ショパン	別れの曲作品10の3・英雄ポロネーズ作品53
33	3	国民国家と帝国主義の世紀	シューベルト	魔王・冬の旅・未完成交響曲
34	7	科学と思想の黄金期	シューマン	謝肉祭
35	6	神的インスピレーションが舞い降りた時代	マネ	笛を吹く少年・エミール・ゾラの肖像
36	0	芸術家 文学家誕生の世紀	ハイネ	歌の本
37	2	破壊と革新の世紀	フローベール	ボヴァリー夫人
38	17	現代へのプロローグ	ゴッホ	ひまわり・星月夜・カラスのいる麦畑
39	5	～人権に目覚める民衆～革命の世紀	ナポレオン	ナポレオン・戦争と平和・タレイラン
40	2	力をつけるヨーロッパと増える植民地	ベートーヴェン	交響曲第9番

# 19世紀の文化

教科書 A : 126~129p. B : 280~283p. 「図説」 222~225p.

「一問一答」 273~282p. 「用語集」 230~237p.

(1) 文学 → 「国語便覧」を参考にせよ。

① 古典主義・ロマン主義 興隆の背景=18世紀の(1) ) 主義の理性尊重に対する反省

② 古典主義

○ (2) ) 文化を理想化し、人間性の調和的な発展を重んずる文芸思潮

○ 18c 中頃~19c はじめの(3) ) できかん

○ 代表例:(4) ) = 『若きウェルテルの悩み』『ファウスト』

(5) ) = 『ヴィルヘルム=テル』『群盗』『ワレンシュタイン』

☆ (6) ) : 1770年代にドイツでおこった文学運動。

個性と意欲と自然の尊重。若きゲーテ・シラーの作品にみられる

③ ロマン主義

○ 個人の(7) ) や想像力を重んじ、民族文化の伝統を尊ぶ文芸思潮

○ 18c 末~19c 前半,(8) ) を中心に各国で波及

○ ドイツ:(9) ) = 『青い花』

(10) ) = 『歌の本』, 革命詩人, ユダヤ人

グリム兄弟 = 『グリム童話集』『ドイツ語辞典』, ともに言語学者

○ フランス:(11) ) = 『レ=ミゼラブル』, 第二帝政に反発

○ イギリス:(12) ) = 『抒情詩選』, 湖畔詩人

(13) ) = 『湖上の美人』

(14) ) = 『チャイルド=ハロルドの遍歴』

★ ギリシア独立戦争に従軍し, 病死

○ アメリカ:(15) ) = 『自然論』, (16) ) = 『緋文字』

(17) ) = 『草の葉』

○ ロシア:(18) ) = 『オネーギン』

『大慰の娘』 ⇨ プガチョフの乱が題材

○ デンマーク: アンデルセン = 『即興詩人』『アンデルセン童話集』

④ 写実主義・自然主義 興隆の背景

=自然科学の発展による, ロマン主義の非現実性に対する不満

⑤ 写実主義

○ 社会・人間を客観的に描写する文芸思潮

○ 19c なかばの(19) ) を中心に展開

○ フランス:(20) ) = 『赤と黒』

⇨ 七月革命が題材, 赤は兵隊・黒は僧侶

(21) ) = 『ゴリオ爺さん』『人間喜劇』

(22) ) = 『ボヴァリー夫人』

○ イギリス:(23) ) = 『虚栄の市』

(24) ) = 『二都物語』, 二都はロンドンとパリ

⑥ 自然主義



- 写実主義をさらに強調，現実を実験科学的にとらえ表現する文芸思潮。社会矛盾の追求の傾向がある。19c後半にさかん
- フランス：(25) = 『居酒屋』，ドレフュス事件でドレフュス大尉の無罪主張  
(26) = 『女の一生』
- ドイツ：ハウプトマン= 『沈鐘』
- スウェーデン：ストリンドベリ= 『令嬢ジュリー』
- ロシア：(27) = 『死せる魂』  
(28) = 『罪と罰』『カラマゾフ兄弟』  
(29) = 『戦争と平和』⇨ナポレオンのロシア遠征が題材  
(30) = 『父と子』⇨ニヒリズムの作品
- ノルウェー：(31) = 『人形の家』⇨女性解放が主題

(2) 美術 ⇨ 美術の教科書を参考にせよ。

- ① **古典主義**：ギリシア・ローマを模範とし，均整を重んじる画風。宮廷中心。  
(32) = 仏，『ナポレオンの戴冠式』  
ナポレオン1世の首席宮廷画家
- ② **ロマン主義**：情熱的・幻想的画風  
(33) = 仏，『民衆を導く自由の女神』『シオの虐殺』  
ギリシア独立戦争の義勇兵
- ③ **自然主義**：ありのままの素朴な自然の姿を描く画風  
(34) = 仏，『落穂拾い』  
コロ＝仏，『モルトフォンテーンの追憶』  
ゴヤ＝西，『裸体のマヤ』
- ④ **写実主義**：現実の自然や人間の立場を客観的に描写しようとする画風  
(35) = 仏，『石割人夫』，パリ＝コミュニューの指導者  
ドーミエ＝仏，ルイ＝フィリップの風刺画を描き禁固刑
- ⑤ **印象派**：光と影による色彩を駆使した画法  
マネ＝仏，『オランピア』 モネ＝仏，『すいれん』  
(36) = 仏，『水浴の女達』 (37) = 仏，『踊子』
- ⑥ **後期印象派**：表現を自己の感覚の上で構成する画法  
セザンヌ＝仏，『聖ヴィクトワール山』 ゴッガン＝仏，『三人のタヒチの女』  
(38) = 蘭，『向日葵（ひまわり）』，強烈な色と線  
(39) = 仏，『考える人』

(3) 音楽 ⇨ 音楽の教科書を参考にせよ。

- ① **古典主義**：文芸における古典主義とは関係なく，近代音楽形成のうえに大きな役割をはたしたという意  
ハイドン＝独，『天地創造』，「交響楽の父」とよばれる  
(40) = 奥，『フィガロの結婚』，古典主義の確立  
(41) = 独，『第9交響曲』，古典主義の集大成
- ② **ロマン主義**：個性・意志・感情を強烈に表現した音楽

(<sup>42</sup> ) = 独, 『冬の旅』『未完成交響曲』, 歌曲の王  
ベルリオーズ: 仏, 『幻想交響曲』, 近代管弦楽の父

シューマン = 独, 『謝肉祭』

(<sup>43</sup> ) = ポーランド, 『前奏曲集』, ピアノ詩人  
リスト: ハンガリー, 『ハンガリー狂詩曲』, 交響詩の創始者

(<sup>44</sup> ) = 独, 『タンホイザー』, 楽劇の創始

③ 印象派音楽 : 19世紀後半, 現代音楽の源流

(<sup>45</sup> ) : 仏, 印象派音楽の創始

(4) 哲学 ⇨ 倫理の教科書を参考にせよ。

① ドイツ観念論

・ イギリスの (<sup>46</sup> ) 論と大陸の (<sup>47</sup> ) 論を総合・批判した思想

・ ドイツの (<sup>48</sup> ) が創始, 著書 (『<sup>49</sup> 』),  
『実践理性批判』『判断力批判』

・ フィヒテ・シェリングが受け継ぐ: フィヒテは (『<sup>50</sup> 』) の  
連続講演で有名

・ 弁証法哲学の (<sup>51</sup> ) によって大成

・ (<sup>52</sup> ) : ヘーゲル学派左派の立場から唯物論を主張

② 弁証法的唯物論

・ 認識・思惟の根源を, 唯物論の立場から弁証法的に把握する哲学

・ (<sup>53</sup> ) が, (<sup>54</sup> ) の弁証法を批判して構築した理論

・ (<sup>55</sup> ) = 歴史の発展法則を弁証法的唯物論の立場から解明する立場

③ 功利主義

・ イギリスの (<sup>56</sup> ) が “最大多数の最大幸福” を主張し, 提唱。

・ (<sup>57</sup> ) やハーバード=スペンサーらに影響

④ 実証主義 ……経験によって確かめられた事柄にのみ知識の源泉をみいだす立場。

・ フランスの (<sup>58</sup> ) が主張。彼は「社会学の祖」とよばれる。

⑤ 実存主義 の先駆

・ デンマークの (<sup>59</sup> ) : 「実存主義の祖」とよばれる。

・ ドイツのニーチェ: “超人” “力への意志”などを説く。

(5) 人文・社会科学

① 歴史学

・ 歴史研究の中心は, 民族意識の高揚した (<sup>60</sup> )

・ (<sup>61</sup> ) : 『世界史』を著し, 史料批判に基づく正確な史実を重視する。  
「近代歴史学の父」とよばれる。

・ ドイツのドロイゼン, トライチケ

・ フランスのギゾー

・ イギリスのカーライル, 『英国史』を著した (<sup>62</sup> )

らが活躍

② 法学

・ ドイツの (<sup>63</sup> ) が歴史法学を提唱⇨法の歴史性・民族的特殊性を主張

③ 経済学

- 歴史学派経済学：ドイツの（<sup>64</sup> ）が主張。彼は保護関税政策を打ち出し、ドイツ関税同盟を提唱。
- 古典派経済学：「古典」とは、“近代的な経済学の基礎となるもの”の意。  
：イギリスの（<sup>65</sup> ）が唱え、（<sup>66</sup> ）や（<sup>67</sup> ）に受け継がれる  
：代表的著書＝マルサスの（<sup>68</sup> ）  
リカードの（<sup>69</sup> ）
- マルクス経済学：マルクスが（『<sup>70</sup> 』）を著して主張
- 新歴史学派経済学：19c末、シェモラーがとなえる。ビスマルクの社会政策に影響

(6) 自然科学とその応用 ⇨ 物理・化学・生物の教科書の科学史年表を参照せよ。

① 物理学

- （<sup>71</sup> ）＝英、「電気分解の法則」の発見
- マイヤーと（<sup>72</sup> ）＝独、「エネルギー保存の法則」を公表
- レントゲン＝独、（<sup>73</sup> ）の発見
- （<sup>74</sup> ）＝仏、ラジウム放射能の発見

② 化学

- （<sup>75</sup> ）＝露、元素の周期率を発見

③ 生物学

- （<sup>76</sup> ）＝英、1859年に（<sup>77</sup> ）を著し、進化論を発表
- （<sup>78</sup> ）＝墺、「遺伝の法則」の発見

④ 医学

- （<sup>79</sup> ）＝仏、微生物病原体の発見
- （<sup>80</sup> ）＝独、結核菌の発見

⑤ 技術

- モールス＝米、（<sup>81</sup> ）の発明
- ノーベル＝スウェーデン、（<sup>82</sup> ）の発明
- ジーメンス＝独、ダイナモとモーターの発明
- （<sup>83</sup> ）＝米、電話機の発明
- （<sup>84</sup> ）＝米、蓄音機、電燈、映画などの発明
- ダイムラー＝独、（<sup>85</sup> ）の発明
- マルコーニ＝伊、（<sup>86</sup> ）の発明

(7) 探検

- ① オーストラリア発見：オランダ人（<sup>87</sup> ）の発見、イギリス人（<sup>88</sup> ）の探検⇨イギリス領に
- ② アフリカ探検：イギリス人（<sup>89</sup> ）とアメリカ人（<sup>90</sup> ）
- ③ 中央アジア探検：スウェーデン人（<sup>91</sup> ）の学術探検
- ④ 北極探検：アメリカ人（<sup>92</sup> ）が北極点到達
- ⑤ 南極探検：ノルウェーの（<sup>93</sup> ）やイギリスの（<sup>94</sup> ）が到達

I年（ ）組（ ）番 名前（ ）

# 19世紀の文化

教科書A : 116~119p. B : 272~273p. 282~284p. 「図説」208~211p. 「用語集」229~237p.

(1) 文学 → 「国語便覧」を参考にせよ。

① 古典主義・ロマン主義 興隆の背景=18世紀の(1 **啓蒙**)主義の理性尊重に対する反省

② 古典主義

◦ (2 **ギリシア・ローマ**)文化を理想化し、人間性の調和的な発展を重んずる文芸思潮

◦ 18c中頃~19cはじめの(3 **ドイツ**)でさかん

◦ 代表例:(4 **ゲーテ**)=『若きウェルテルの悩み』『ファウスト』

(5 **シラー**)=『ヴィルヘルム=テル』『群盗』『ワレンシュタイン』

☆(6 **シュトウルム=ウント=ドラंक**[疾風怒濤]):1770年代にドイツでおこった文学運動。

個性と意欲と自然の尊重。若きゲーテ・シラーの作品にみられる

③ ロマン主義

◦ 個人の(7 **感情**)や想像力を重んじ、民族文化の伝統を尊ぶ文芸思潮

◦ 18c末~19c前半,(8 **ドイツ**)を中心に各国で波及

◦ ドイツ:(9 **ノヴァーリス**)=『青い花』

(10 **ハイネ**)=『歌の本』,革命詩人,ユダヤ人

グリム兄弟=『グリム童話集』『ドイツ語辞典』,ともに言語学者

◦ フランス:(11 **ユーゴー**)=『レ=ミゼラブル』,第二帝政に反発

◦ イギリス:(12 **ワーズワース**)=『抒情詩選』,湖畔詩人

(13 **スコット**)=『湖上の美人』

(14 **バイロン**)=『チャイルド=ハロルドの遍歴』

★ **ギリシア独立戦争に従軍し,病死**

◦ アメリカ:(15 **エマーソン**)=『自然論』,(16 **ホーソン**)=『緋文字』

(17 **ホイットマン**)=『草の葉』

◦ ロシア:(18 **プーシキン**)=『オネーギン』

『大慰の娘』⇨**プガチョフの乱が題材**

◦ デンマーク:アンデルセン=『即興詩人』『アンデルセン童話集』

④ 写実主義・自然主義 興隆の背景

=自然科学の発展による,ロマン主義の非現実性に対する不満

⑤ 写実主義

◦ 社会・人間を客観的に描写する文芸思潮

◦ 19cなかばの(19 **フランス**)を中心に展開

◦ フランス:(20 **スタンダール**)=『赤と黒』

⇨**七月革命が題材**,赤は兵隊・黒は僧侶

(21 **バルザック**)=『ゴリオ爺さん』『人間喜劇』

(22 **フロベール**)=『ボヴァリー夫人』

◦ イギリス:(23 **サッカレー**)=『虚栄の市』

(24 **ディケンズ**)=『二都物語』,二都はロンドンとパリ

⑥ 自然主義

◦ 写実主義をさらに強調,現実を実験科学的にとらえ表現する文芸思潮。社会矛盾の追求

の傾向がある。19c後半にさかん

- フランス：(25 **ゾラ** ) = 『居酒屋』, ドレフュス事件でドレフュス大尉の無罪主張  
(26 **モーパッサン** ) = 『女の一生』
- ドイツ：ハウプトマン = 『沈鐘』
- スウェーデン：ストリンドベリ = 『令嬢ジュリー』
- ロシア：(27 **ゴーゴリ** ) = 『死せる魂』  
(28 **ドストエフスキー** ) = 『罪と罰』『カラマーゾフの兄弟』  
(29 **トルストイ** ) = 『戦争と平和』 ⇨ ナポレオンのロシア遠征が題材  
(30 **トウルゲーネフ** ) = 『父と子』 ⇨ ニヒリズム的作品
- ノルウェー：(31 **イブセン** ) = 『人形の家』 ⇨ 女性解放が主題

(2) 美術 ⇨ 美術の教科書を参考にせよ。

- ① **古典主義** : ギリシア・ローマを模範とし、**均整**を重んじる画風。宮廷中心。  
(32 **ダヴィド** ) = 仏, 『ナポレオンの戴冠式』  
ナポレオン1世の首席宮廷画家
- ② **ロマン主義** : 情熱的・幻想的画風  
(33 **ドラクロワ** ) = 仏, 『民衆を導く自由の女神』『シオの虐殺』  
ギリシア独立戦争の義勇兵
- ③ **自然主義** : ありのままの**素朴な自然**の姿を描く画風  
(34 **ミレー** ) = 仏, 『落穂拾い』  
コロ＝仏, 『モルトフォンテーンの追憶』  
ゴヤ＝西, 『裸体のマヤ』
- ④ **写実主義** : 現実の自然や人間の立場を**客観的に描写**しようとする画風  
(35 **クールベ** ) = 仏, 『石割人夫』, **パリ**=**コミューン**の指導者  
ドーミエ＝仏, **ルイ**=**フィリップ**の風刺画を描き禁固刑
- ⑤ **印象派** : **光と影**による色彩を駆使した画法  
マネ＝仏, 『オランピア』 モネ＝仏, 『すいれん』  
(36 **ルノワール** ) = 仏, 『水浴の女達』 (37 **ドガ** ) = 仏, 『踊子』
- ⑥ **後期印象派** : 表現を**自己の感覚**の上で構成する画法  
セザンヌ＝仏, 『聖ヴィクトワール山』 ゴッガン＝仏, 『三人のタヒチの女』  
(38 **ゴッホ** ) = 蘭, 『向日葵(ひまわり)』, 強烈な色と線  
(39 **ロダン** ) = 仏, 『考える人』

(3) 音楽 ⇨ 音楽の教科書を参考にせよ。

- ① **古典主義** : 文芸における古典主義とは関係なく、近代音楽形成のうえに大きな役割を  
たしたという意  
ハイドゥン＝独, 『天地創造』, 「**交響楽の父**」とよばれる  
(40 **モーツァルト** ) = 奥, 『フィガロの結婚』, 古典主義の確立  
(41 **ベートーヴェン**) = 独, 『第9交響曲』, 古典主義の集大成
- ② **ロマン主義** : 個性・意志・感情を強烈に表現した音楽  
(42 **シューベルト** ) = 独, 『冬の旅』『未完成交響曲』, 歌曲の王  
ベルリオーズ：仏, 『幻想交響曲』, 近代管弦楽の父

シューマン＝独、『謝肉祭』

(<sup>43</sup> ショパン )＝ポーランド、『前奏曲集』、ピアノ詩人  
リスト：ハンガリー、『ハンガリー狂詩曲』、交響詩の創始者

(<sup>44</sup> ワグナー )＝独、『タンホイザー』、楽劇の創始

③ 印象派音楽：19世紀後半、現代音楽の源流

(<sup>45</sup> ドビュッシー )：仏、印象派音楽の創始

(4) 哲学 ⇨ 倫理の教科書を参考にせよ。

① ドイツ観念論

- イギリスの(<sup>46</sup> 経験 )論と大陸の(<sup>47</sup> 合理 )論を総合・批判した思想
- ドイツの(<sup>48</sup> カント )が創始、著書(『<sup>49</sup> 純粹理性批判 』)、  
『実践理性批判』『判断力批判』
- フィヒテ・シェリングが受け継ぐ：フィヒテは(「<sup>50</sup> ドイツ国民に告ぐ 』)の  
連続講演で有名
- 弁証法哲学の(<sup>51</sup> ヘーゲル )によって大成
- (<sup>52</sup> フォイエルバッハ )：ヘーゲル学派左派の立場から唯物論を主張

② 弁証法的唯物論

- 認識・思惟の根源を、唯物論の立場から弁証法的に把握する哲学
- (<sup>53</sup> マルクス )が、(<sup>54</sup> ヘーゲル )の弁証法を批判して構築した理論
- (<sup>55</sup> 唯物史観 )＝歴史の発展法則を弁証法的唯物論の立場から解明する立場

③ 功利主義

- イギリスの(<sup>56</sup> ベンサム )が“最大多数の最大幸福”を主張し、提唱。
- (<sup>57</sup> ジョン＝ステュアート＝ミル )やハーバード＝スペンサーらに影響

④ 実証主義 ……経験によって確かめられた事柄にのみ知識の源泉をみいだす立場。

- フランスの(<sup>58</sup> コント )が主張。彼は「社会学の祖」とよばれる。

⑤ 実存主義 の先駆

- デンマークの(<sup>59</sup> キェルケゴール )：「実存主義の祖」とよばれる。
- ドイツのニーチェ：“超人”“力への意志”などを説く。

(5) 人文・社会科学

① 歴史学

- 歴史研究の中心は、民族意識の高揚した(<sup>60</sup> ドイツ )
- (<sup>61</sup> ランケ )：『世界史』を著し、史料批判に基づく正確な史実を重視する。  
「近代歴史学の父」とよばれる。
- ドイツのドロイゼン、トライチケ
- フランスのギゾー
- イギリスのカーライル、『英国史』を著した(<sup>62</sup> マコーリー )

らが活躍

② 法学

- ドイツの(<sup>63</sup> サヴィニー )が歴史法学を提唱⇨法の歴史性・民族的特殊性を主張

③ 経済学

- 歴史学派経済学：ドイツの(<sup>64</sup> リスト )が主張。彼は保護関税政策を打ち出し、  
ドイツ関税同盟を提唱。



## 実践上の留意点

### 1. 授業説明

本授業を実践するにあたり、次のことを念頭においた。

- ① 世界史の研究授業で取り上げられることの少ない、文化史の授業を行う。
- ② できるだけ「アクティブ・ラーニング」に近い授業を行う。

世界史の授業で、文化史の扱いは非常に困難である。教科書に記載されたデータは膨大で、多岐にわたる。その一つひとつの事象が深い意味を持ち、全てを取り上げるとこれだけで1年はかかる。シラバスに従えば、この小単元「19世紀ヨーロッパの文化」は、最大でも1.5時間で終えないといけな。現行の高校地理歴史科 学習指導要領「世界史A」には、次のような記述がある。「近現代世界の扱いについて……政治、経済、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史的な事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養うこと。……近現代史は政治や経済の動向を中心とした内容構成になりやすいが、指導計画においては、政治や経済の観点だけではなく、社会、文化、宗教、生活など様々な観点からも歴史の動きを総合的に理解させるよう留意する。」すなわちこの実践は、文化の学習を通して、政治・経済の動向を振り返り、同時に、社会や宗教、生活をも視野に入れながら、19世紀ヨーロッパ史を生徒に主体的に総括させる取り組みで、文化史学習の一つのモデルを提示することをねらったものである。

もう一つのねらいは、「アクティブ・ラーニング」に挑戦することである。「網羅主義・講義形式・暗記学習」と酷評されることの多い世界史授業であるが、実践者はこれらを全て誤りとは考えない。生徒のおかれた状況、現行法体制下の制約を鑑みると、講義形式中心の系統学習を全否定はできない。しかし、可能な限り、学ぶ側の能動性・主体性を育むことも視野に入れた方略は必要である。徹頭徹尾「アクティブ・ラーニング」でなくとも、全体計画の中に部分的にこの方略を取り入れることが有益である。このような前提でこの実践を試みた。生徒には、19世紀ヨーロッパ文化史に関わるデータベースを完成させ、そのなかから、興味・関心のある人物や業績について調査させ、そのことを通して、19世紀ヨーロッパ史を総括するキャッチコピーを各自で作らせた。クラス全体で個々の作品を共有し、どの作品がその時代を最も的確に表現したものか、自己評価と相互評価を行わせた。本授業は、各自が優れた作品と考えるものを3つ選択し、その評価の明確な根拠を探り、最良のキャッチコピーはどれかを議論させ、結論を出していく構成であった。

### 2. 研究協議より

◎19世紀ヨーロッパ史の総括を、文化史の学習を核にして行おうという試みであったが、本授業は、文化史の学習が中心であったのか、19世紀ヨーロッパ史の総括が中心であったのか、いずれをねらったものか？

→両方を同時に行おうとしたが、時間の制約もあり、19世紀ヨーロッパ史の特色の学びから、政治・経済・社会など多方面から19世紀ヨーロッパ史を総括させるに至る、接続部分の繋がりが弱かったと言わざるをえない。

◎これまで行ってきた文化史の学習と比較して、この授業で、生徒は「アクティブ」に文化史を学ぶことができたのか？

→従来は、文化史のデータベースを整理しながら、この時代の特色にかなう文化的な事象を教師が事例として選択し、解釈・説明を行った。この実践では、事象を生徒に選択させ、それを選択した理由、評価されるべき根拠を明確にさせ、そのことを通して、19世紀のヨーロッパはどのような時代であると総括できるか、考えさせた。従来の文化史の学習と比較して、思考・判断・表現のトレーニングにはなったと考える。

◎文化史の学習の方略として、この授業のアピールポイントは何か？

→文化的な事象の「教師による解説」や、個々の生徒の「調べ学習」と比較して、生徒自らが、問いに対してアプローチしていく、そのプロセスと成果を、クラス全体が共有することができたこと。文化の学習に特化するのではなく、文化を歴史の総体と考え、政治・経済・社会・宗教・生活を全て含めて、時代の特色・個性を生徒自らが語らせ、それらを相互評価させたことである。